

## 県主導第三セクターの抜本的見直しに向けた行程表

(法人名)

株式会社湘南国際村協会

(今後のあり方)

早期の自立化に向けて、更なる経営改善に取り組む。

### ① 今後の課題（及びその対応）

現中期経営計画である改訂第四次経営計画（計画期間：平成 30 年度から令和 4 年度）では、次の 4 項目を抽出した。

次期計画は策定中であるが、この項目は継続する予定である。

- ① 湘南国際村基本計画を踏まえた事業の展開
- ② 安定的な売上の確保
- ③ コスト管理の徹底
- ④ 計画的な修繕の実施・新たな修繕計画の準備

<対応>

現計画は、5 年間で計画期間としていたが、そのうち約 3 年間は新型コロナウイルス感染症対策のための宿泊療養施設として、神奈川県に借り上げられ、通常営業が行われていない状況の中、次期計画の策定作業に当たっている。

なお、計画策定と来年度事業計画については、本年 3 月の取締役会決議事項である。

### ② 抜本的見直しに向けた行程表

令和 5 年 3 月 新たな中期経営計画となる「第五次経営計画」を策定予定である。  
(計画期間：令和 5 年度から 9 年度)

令和 5 年 4 月～ コロナ禍で宿泊研修需要が落ち込み、円安や不安定な海外情勢が影響して、光熱費、食材費、人件費の高騰が見込まれる中、当社の強みを生かしたマーケティングを実施していく。

<主な具体的な取組>

- ① web広告による新規顧客の獲得
- ② ハイブリッド会議・研修の利用促進
- ③ 環境を生かした学会・学習合宿等の誘致
- ④ 大学との協同によるレストランメニューの開発と販売
- ⑤ 業務委託の見直し検討
- ⑥ 施設設備の効率的な更新・補修

### ③ その他特記事項

通常業務としての宿泊研修施設の今後の在り方を探るべく、取締役会での十分な議論を経て第五次経営計画を策定し、安定的な黒字経営を目指す。

**抜本的な見直しに取り組む法人の経営改善目標**  
(目標期間：令和 5 年度～令和 9 年度)

(法人名) 株式会社湘南国際村協会

**1 法人の使命・担うべき役割**

- ・ 湘南国際村の中核施設としての湘南国際村センターの安定的管理運営の推進
- ・ 湘南国際村基本計画の推進への貢献

**2 県が法人に期待する役割**

湘南国際村基本計画上の村の中核施設としての機能の発揮

**3 法人運営における現状の課題**

通常営業開始後の経営改善計画の着実な履行

**4 経営改善目標**

**【収支健全化に向けた経営改善】**

総括的目標

- 1 第三セクターとしての社会的責任と役割を果たす。
  - ・ 湘南国際村基本計画における中核施設（湘南国際村センター）の管理運営を担う第三セクターとして、その社会的責任と役割を着実に果たす。
- 2 ウィズコロナの状況下で「選ばれる施設」とする。
  - ・ 顧客カテゴリーごとにきめ細かく提供サービスや施設設備の魅力をアピールし、ウィズコロナの状況下で「選ばれる施設」としての魅力を高める。
- 3 中長期的な観点からの経営基盤の強化を図る。
  - ・ 安定的な売上の確保とコスト管理を徹底するとともに、計画的な改修や推進体制の充実により快適で安心してご利用いただける施設設備を提供し、中長期的な観点からの経営基盤の強化を図る。

No. 1 リピーター率（単位：％）

(※) 令和元年度（療養施設としての利用開始前）実績を参考に記載する。

令和元年度 実績 (※)	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
70.1	50	60	65	67	70
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	計画期間中の重点的取組として、当社の強みであるリピーター率を確保する必要がある。				
目標値の設定根拠	令和 9 年度にコロナ禍前の水準（約 70%）を目標とする。				

No. 2 ウェブ広告からの成約件数（単位：件）

令和元年度実績	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
—	50	60	60	60	60

目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	計画期間中の重点的取組として、新規顧客の開拓を図り、成約に結びつけていく必要がある。
目標値の設定根拠	毎年度、5件/月を目標とする。 (令和5年度は、令和5年6月～令和6年3月の10か月想定)

No. 3 休眠顧客からの成約件数 (単位: 件/%)

(※) 令和元年度(療養施設としての利用開始前)実績を参考に記載する。

令和元年度 実績 (※)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
13 件	対象の 10 % (37 件)	対象の 10 %	対象の 10 %	対象の 10 %	対象の 10 %
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	計画期間中の重点的取組として、休眠顧客を呼び戻し、成約に結びつけていく必要がある。				
目標値の設定根拠	毎年度、対象の10%を目標とする。(母数の変動あり) ※ 休眠顧客は、療養施設としての利用開始(令和2年4月)を基準として、平成30年4月以降に利用のない顧客である。 令和5年度は、最新利用日を平成21年まで遡り、リストアップした450件のうち、令和5年6月～令和6年3月の10か月想定(年間目標45件の10か月分(83%)で37件)とした。				

No. 4 宿泊人数(単位: 人)、売上高(単位: 千円)、営業利益(単位: 千円)

(※) 令和元年度(療養施設としての利用開始前)実績を参考に記載する。

項目	令和元年度 実績 (※)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
宿泊人数	31,241	17,000	27,800	30,300	31,800	33,000
売上高	550,036	503,540	547,359	594,112	622,965	647,162
営業利益	57,814	10,062	12,438	11,192	20,939	48,840
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	湘南国際村基本計画の推進に貢献するため、安定的な経営の目標となる3項目を選定した。					
目標値の設定根拠	宿泊客の行動変容として、シングルユースのニーズの高まり、リモート会議の定着などを考慮し、一室当たりの利用人数、リピーター率を5年かけて回復し、新規・休眠顧客からの成約に取り組むことで、コロナ前の状態に徐々に近づけていくこととした。 (令和5年度は、令和5年6月～令和6年3月の10か月想定)					

\* 今後の県からの財政的支援(または損失補償残高)の見込み

なし

5 その他特記事項